

令和 4 年 5 月 10 日現在

機関番号：32718

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00890

研究課題名(和文)多言語多文化に対応する多機能教師教育の可能性：英語教育の視点から

研究課題名(英文)Pluriteacher education in multilingual and multicultural societies from the viewpoint of ELT

研究代表者

笹島 茂(SASAJIMA, SHIGERU)

東洋英和女学院大学・国際社会学部・教授

研究者番号：80301464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、多言語多文化状況の実態の特徴を調査し、それに対応する言語教育のあり方を工夫し、カリキュラムの再編成、言語教育の枠組の再構築を検討し、その学習に従事できる多様な知識と技能を持った(言語)教師を育成する意義と可能性について検討し、多言語多文化状況に対応する多機能教師の育成を提案することにあつた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により十分な研究はできなかった。できたことは、オンラインでのアンケート調査、広く意見を聞くこと、必要なデータの収集・分析、最終年度の2回を含んだ海外調査であり、検証をまとめるまでには至らなかった。それでも可能な範囲で多機能教師教育の可能性は示唆できたと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化する社会において教師の役割が多様化し、これまでのカリキュラムに則った各教科に特化した養成システムは、統合的で柔軟な教師の役割を活性化し、単に知識や技能を学ぶだけではなく、知識や技能を効果的に活用する思考や工夫を促し、能動的で挑戦的な人材の育成を支援する教師の養成にシフトする必要がある。多機能教師(IMT)はそのような実利的な面を強調する。多機能教師(IMT)は、現在の初等中等教育の教員養成課程の枠組では対応していないが、多言語多文化状況での教師は必然的にそのような要素が必要になっていると考えられる。本研究は、多機能教師(IMT)の育成について実践的にその可能性を検討した点に意義がある。

研究成果の概要(英文)：The present study initially aimed to do research on the characteristics of the current multilingual and multicultural situations, develop language education for them, realign the curriculum, consider the reconstruction of the language education framework, and propose some ideas for better teacher education to cultivate an integrated multifunctional teacher (IMT) for plurilingual and pluricultural education. However, due to COVID-19, the research has not been conducted well. What has been achieved is online questionnaire survey, gathering comments and opinions from teachers, collecting and analyzing some necessary data, and overseas fieldwork including visiting several countries in Europe and Asia. The study could not be completed as a result. Nevertheless, there could be at least a potential that an IMT is worth being developed.

研究分野：CLIL (内容と言語を統合した学習)

キーワード：CLIL 多言語多文化 教員養成 英語教育

## 1. 研究開始当初の背景

- 1) 本研究の目的を遂行するためには、1) グローバル化する世界(the globalized world)、2) 英語を中心とする言語教育事情(English as a global language)、3) 多言語多文化状況(multilingual and multicultural societies)、それと対比される、4) 日本における学校教育の動向及びそれと連動する教員養成や研修(Japanese domestic educational contexts)などについて、その背景にある文脈を理解しておく必要がある。
- 2) 本研究は、以上の4点について議論し的確に理解した上で進める必要がある。たとえば、教師という役割は、英語で言えば「teacher(教える人)」であり、それぞれの社会的文化的背景の違いの中で多様に変化するが、日本と較べると欧米などではその仕事内容はシンプルに「ある学習内容を教える」ということであるが、日本では「指導者、導く人」であり仕事の幅が広い。PISA(Programme for International Student Assessment: 生徒の学習到達度調査)(2013)や TALIS( Teaching and Learning International Survey: 国際教員指導環境調査)(2018)の調査でも明らかになったように、日本の教師の労働時間は世界と較べて最長である。その職域は必ずしも授業にだけその時間を割いているわけではないことは明らかである。その理由の一つが、日本の教師の役割が「教える」内容の幅が広く想定されていることにあると考えられる。他国と較べて、学校行事(体育祭、文化祭、修学旅行など)生活指導、進路指導、部活動など、授業以外の仕事が多く、業務が複雑であり、相当の時間と労力を強いられる。背景にはこれまでの学校文化の伝統がある。このような日本の特異な事情による暗黙の複雑な教師の職能範囲が、国際的な比較調査では表れにくい実態を示しているが、そのような現実を把握しながら、多機能教師(IMT)の養成と研修の仕組みを検討する必要があると考えている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、英語教育の視点から、多言語多文化状況に対応する多機能(複言語と複文化を扱う)教師の教員養成と研修の枠組を構築することにある。本研究では、その意味から多機能教師(IMT)を次のように定義している。

多機能教師(IMT)とは、日本語や英語などいくつかの言語を教え学ぶことに携わる教師で、かつ、専門分野や教科などの学ぶ内容と関連した学習者のニーズや特性に応じて多様に柔軟に対応する思考と統合的な学習を支援する教師である

The Integrated Multifunctional Teacher (IMT) is a language teacher who teaches and learns some languages, such as Japanese and English, and promotes cognition and integrated learning on learners' needs and properties regarding their fields of study or content subjects in a diverse and flexible way.

グローバル化する社会において教師の役割が多様化し、これまでのようなカリキュラムに則った各教科に特化した養成システムは、統合的で柔軟な教師の役割を活性化し、単に知識や技能を学ぶだけではなく、知識や技能を効果的に活用する思考や工夫を促し、能動的で挑戦的な人材の育成を支援する教師の養成にシフトする必要がある。IMTは、教育基本法第一条が規定する「教

育は、人格の完成を目指し」という文言にある精神的な教師の専門性とは異なり、実利的な面を強調する。このような教師は、現在の初等中等教育の教員養成課程の枠組では対応していないが、多言語多文化状況での教師は必然的にそのような要素が必要になってきていると考える。本研究では、ここに掲げる定義の多機能教師(IMT)について、実践的にその可能性を検討する。

### 3．研究の方法

本研究の目的である多言語多文化状況に対応する多機能教師(IMT)の養成と研修の枠組の構築において、まず、その背景として、1) グローバル化する世界、2) 英語を中心とする言語教育事情、3) 多言語多文化状況、4) 日本における学校教育の動向及びそれと連動する教員養成や研修、という4点について検討した。次に本研究の先行研究をもとに、多機能教師(IMT)の10のスタンダードを設定した。

IMT 1：言語を教える知識と技能

IMT 2：言語を教える授業運営の知識と技能

IMT 3：学ぶ内容の目標の明確化＋学習者ニーズ・特性

IMT 4：学ぶ内容＋学習者ニーズ・特性に沿ったカリキュラム設計と評価

IMT 5：言語を教えることと学ぶ内容＋学習者ニーズ・特性の支援

IMT 6：思考と統合的な学習のディスコースコミュニティの理解

IMT 7：言語を教えることの理解と思考と統合的な学習の専門性

IMT 8：言語使用のジャンル（場面や社会文化など）に対する理解

IMT 9：初等教育から高等教育まで系統的な思考と統合的な学習の理解

IMT 10：思考と統合的な学習の評価測定方法に関する知識と技能

本研究は、このスタンダードを可能な限り事実や経験などのデータの蓄積をもとに検証し、実現可能な養成と研修のあり方を提案することを目標として設定している。その際、CLILの知見が有効に働くことが予想されるので、CLILの統合学習の理念を生かし、さらに、内容と言語だけではなく、言語や文化の多機能性も考慮しながら、より多様で柔軟でダイナミックな要素をCLILの理念に取り入れて検討することにする。

### 4．研究成果

研究成果は提言としてまとめ、海外への発信も視野に、日本に限らず国際的な未来の教育に対応する多言語多文化状況に対応する多機能教師(TM)の教員養成と研修の可能性について指針を策定し、最終的に事例をもとに実践的モデルを提示する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症により後半の2年間計画したことのすべてがほぼできなくなってしまった。まとめとしては、その研究の調査の記録だけをここに集録し、今後の研究の資料としたい。なお、研究に関してオンラインでの可能性も追求したが、やはり教育は対面が基本であり、対面あつてのオンラインであると思う。特に本研究の趣旨は当初からフィールドワークを基盤とした調査であり、それ無くしては完結できないと考えている。調査結果が不十分となったことは残念であるが、

今後の調査研究につなげていきたい。詳細は、研究成果報告書 『多言語多文化に対応する多機能教師教育の可能性: 英語教育の視点から Integrated Multifunctional Teacher (IMT) Education for Plurilingual and Pluricultural Education:A View from English Language Teaching (ELT) 』  
<https://x.gd/jV2wa> 参照

< 引用文献 >

PISA ( Programme for International Student Assessment: 生徒の学習到達度調査 ) (2013)  
<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html>

TALIS ( Teaching and Learning International Survey: 国際教員指導環境調査 ) (2018)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/data/Others/1349189.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/1349189.htm). 5 .

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Shigeru Sasajima	4. 巻 3
2. 論文標題 Foreword: I believe that CLIL can improve education quality even during the pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (JJCLIL)	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Sasajima, Shigeru	4. 巻 Vol.1
2. 論文標題 Teacher Development: J-CLIL	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Content and Language Integrated Learning in Spanish and Japanese Contexts: Policy, Practice and Pedagogy	6. 最初と最後の頁 287-312
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sasajima, Shigeru	4. 巻 Vol. 2
2. 論文標題 Foreword: Isn't it Necessary to Develop CLIL Pedagogy in Asia?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL): JJCLIL	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Sasajima, S, Lin, A., Yang, W., Harada, T., Tsuchiya, K. & Ikeda, M.	4. 巻 Vol. 2
2. 論文標題 Collaboration of CLIL pedagogy in Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL): JJCLIL	6. 最初と最後の頁 7-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Shigeru Sasajima	4. 巻 TEU Research Grant Report
2. 論文標題 The issues of application and validation for the contextualization of CLIL in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Application and Validation for the Contextualization of CBLT/CLIL in Japan - Active English Medium Classrooms through Cooperative Learning	6. 最初と最後の頁 13-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 笹島茂
2. 発表標題 教師認知の研究から考えるCEFRを背景とした言語 + CLIL教師の授業観
3. 学会等名 日本独文学会ドイツ語教員養成・研修講座 第1回ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sasajima, Shigeru
2. 発表標題 Plurilingual and Pluricultural Teacher Education in Non-European CLIL Contexts
3. 学会等名 LIF 2019 - 6th International Language in Focus Conference Dubrovnik, Croatia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasajima, Shigeru
2. 発表標題 Raising plurilingual and pluricultural competencies in CLIL pedagogy
3. 学会等名 2nd Biannual International Conference: Cross-curricular Language Learning: Putting CLIL into Practice (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasajima, Shigeru
2. 発表標題 CLIL pedagogies for teachers to raise plurilingual and pluricultural competencies
3. 学会等名 The 13th Annual International Conference of the World Association of Lesson Studies (WALS)Amsterdam (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasajima, Shigeru
2. 発表標題 CLIL in Japan and its future and diversity
3. 学会等名 International Conference on Bilingual Education at Cordoba University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasajima, Shigeru
2. 発表標題 Bilingual Education in Japan: J-CLIL - CLIL in Japan and its future and diversity
3. 学会等名 The Intercultural Seminar at Sarajevo Univerisity (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笹島茂
2. 発表標題 CLILを楽しむ Enjoy teaching CLIL
3. 学会等名 日本CLIL教育学会東北支部大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Sasajima
2. 発表標題 What is J-CLIL going for?
3. 学会等名 Lecture at Melbourne University, Australia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Sasajima, et al.
2. 発表標題 Workshop: CLIL principles and ideas in diverse contexts -workshop
3. 学会等名 JACET International conference 2018, Sendai, Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Sasajima
2. 発表標題 The education system in Japa - Need for developing Intercultural Awareness and CLIL
3. 学会等名 Toyo Eiwa and Sarajevo University Intercultural Communication, Sarajevo, Bosnian & Herzegovina (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Sasajima
2. 発表標題 Plurilingual and pluricultural competencies
3. 学会等名 Sakura Japan Language Seminar at the University of Edinburgh, Scotland, the UK (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年



## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 笹島 茂	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 304
3. 書名 教育としてのCLIL	

1. 著者名 笹島 茂, 小島 さつき, 安部 由紀子, 佐藤 元樹, Barry Kavanagh, 工藤 泰三	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 104
3. 書名 CLIL 英語で考えるSDGs 持続可能な開発目標 CLIL	

1. 著者名 笹島茂、山野有紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 202
3. 書名 学びをつなぐ小学校外国語教育のCLIL実践	

1. 著者名 笹島茂, 工藤泰三, 荊紅涛, Joe Larry, Hannah Haruna	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 112
3. 書名 CLIL 英語で培う文化間意識	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果報告書 『多言語多文化に対応する多機能教師教育の可能性：英語教育の視点から Integrated Multifunctional Teacher (IMT) Education for Plurilingual and Pluricultural Education:A View from English Language Teaching (ELT)』 <https://x.gd/jv2wa>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------